タイトル

ファニーたい焼きトム６― ケバブ

あらすじ

日本の都内にある中身が独特なたい焼き屋『たい焼きトム』。店主の陽気なアメリカ人、トムが挑戦する今回の新作は――なんと「ケバブ」入りたい焼き！真面目で心配性のバイト店員、魚住が巻き込まれつつ、奇妙な発想とユニークな客たちが繰り広げるハイテンションコメディー。果たして、この新作は成功するのか？

登場人物

トム（30代前半、男）：店主。たい焼き大好きなアメリカ人で、「どうせ作るならファニーなたい焼きを！」をモットーに日々斬新なアイデアを生み出す。

魚住（20代前半、女）：バイト店員。真面目な日本人女性で、トムの奇抜なアイデアに毎回戸惑いながらも協力してしまう。

常連客・サトウ（40代、男）：サラリーマン。トムの店に通うユーモア好きな常連。

観光客・ジェニー（30代、女）：トムの国から来た観光客。トムの熱狂的ファン。

ミステリアスな老人（60代後半、男）：近所に住む謎めいた男性。批評家のような厳しい目で新作を評価する。

シーン1

ロケーション：東京都内、商店街の一角にある『たい焼きトム』店内

（トムが店の奥でたい焼き機の前に立ち、エプロンをつけて楽しそうに鼻歌を歌っている。作業台の上には明らかにたい焼きの材料ではない具材が山積みになっている…牛肉、スパイス、野菜、ヨーグルトソースなど。）

トム（興奮気味に独り言）：「オッケー、トム…次は一体どんなファニーなたい焼きを作るかだ。普通のアンコ？ノーサンキュー！クリーム？それじゃありきたりだ。そうだ、ケバブだ！ケバブたい焼き！これだ！」

（トムが両手を広げ、想像上の観客に向かって叫ぶ。）

トム:「Ladies and gentlemen! Introducing the one and only…ケバブたい焼き！未来のたい焼きだ！」

（奥から魚住が出てくる。エプロンを直しながらトムを見て呆れる。）

魚住:「トムさん、今度は何やってるんですか？また変なアイデア思いついたんでしょ？」

トム（誇らしげに）：「変じゃない、ファニーなんだ！見てくれ、これが新しいたい焼きの中身だ。」

魚住（驚きながら）：「ケバブ…！？たい焼きに合うんですか、それ？」

トム（自信満々に）：「魚住、挑戦することが進化なんだよ！」

（魚住、ため息をつきながら腕を組む。）

魚住：「挑戦っていうか…ただの無茶振りですよ、それ。」

（トム、勢いよくたい焼き機に向かって準備を始める。）

トム：「さあ、作るぞ！見ててくれ、最高のケバブたい焼きを！」

シーン2：

ロケーション：店の厨房

（トムが大量のケバブ用の肉を切り分け、香辛料を振りかけている。その様子は真剣そのものだが、どこか滑稽でもある。魚住は心配そうに見守る。）

魚住：「トムさん、それ…肉が溢れすぎて焼けませんよ？」

トム（大げさに）：「ノープロブレム！ケバブたい焼きにはダイナミックさが必要なんだ！」

（トムがたい焼きの生地を機械に流し込み、肉を豪快に乗せる。次にヨーグルトソースをスプーンでドバッとかける。）

魚住（顔をしかめて）：「ヨーグルトソース…それ絶対中で爆発しますよ。」

（案の定、たい焼き機から「ジュワッ」と音がして、蒸気とともにソースがはみ出る。）

トム（慌てながら）：「おおっと、これは想定内だ！」

（魚住が急いで雑巾を持ってくるが、トムはなおも調理を続ける。）

魚住：「絶対想定外ですよね！？どうするんですか、これ！」

トム（にやりと笑って）：「改良の余地がある…それだけさ！」

シーン3：

ロケーション：開店直後の『たい焼きトム』店内

（開店と同時にトムが威勢よくカウンターに出る。手には完成したケバブたい焼きを持っている。独特なスパイスの香りが店内に充満し、通りがかりの客たちが足を止める。）

トム：「皆さん、注目！これが未来のたい焼き…ケバブたい焼きです！」

（客たちがざわつく。）

常連客・サトウ：「ケバブ…たい焼き？なんだそれ、斬新すぎるだろ。」

観光客・ジェニー：「Oh my gosh! This is crazy! I need to try it right now!」

（客たちが次々と注文し、ケバブたい焼きを食べる。カメラが各客のリアクションを大げさに切り取る。）

女子高生グループ：「これ…ヤバくない!? 美味しいけど、スパイス効きすぎ!」

サラリーマン：「昼飯には重いけど…クセになるな、これ。」

常連客・サトウ（ケバブたい焼きの内部をスローモーションで撮影）「ジューシーな牛肉とスパイスの効いたソースが生地と絶妙にマッチ。噛むたびに溢れる肉汁と香りが口の中でダンスを踊る！」

（魚住が満足そうにトムを見やる。）

魚住：「トムさん…意外と評判いいみたいですね。」

トム（ガッツポーズで）：「やっぱり！俺のファニーたい焼きがまた勝利した！」

シーン4：

ロケーション：『たい焼きトム』店内、SNS投稿がバズるシーン

（客たちがスマホでケバブたい焼きを撮影し、次々にSNSに投稿する。タイムラインが「#ケバブたい焼き」で埋まっていく。）

SNS投稿例：

「#ケバブたい焼き　食べた瞬間、スパイスのパンチが…でもハマる…。トムさん天才かも！」

「新作たい焼き　まさかのケバブ味！インド料理店より本格的（笑）#たい焼きトム」

「たい焼きの概念を覆した…　写真映えだけじゃなくて味もヤバい。#SNS映え」

「これ食べたらもう普通のたい焼きに戻れない…　ありがとうトムさん！#異次元たい焼き」

エピローグ

ロケーション：閉店後の『たい焼きトム』店内

（トムと魚住が片付けをしていると、店のドアが開く。スーツ姿の中年男性が入ってくる。どこか怪しげな雰囲気を漂わせている。）

スパイ店主：「こんばんは。こちらが噂のケバブたい焼きの店ですね。」

トム（笑顔で）：「そうだよ！ようこそ、ファニーたい焼きの世界へ！」

（男性が静かにケバブたい焼きを注文し、一口食べる。口元がピクリと動くが、無表情を保とうとする。）

スパイ店主：「……なるほど。これは…凄い。真似できない。」

（彼はポツリとそう呟くと、静かに席を立ち、帰り際に一言残す。）

スパイ店主：「アイデアがぶっ飛びすぎて真似できません…参りました。」

（トムが満足そうに微笑み、魚住は呆れたような表情で肩をすくめる。）

魚住：「トムさん、またライバル店主が降参しましたね。」

トム（陽気に）：「もちろんさ！ファニーたい焼きは真似されないのがポイントだからね！」

（トムと魚住が笑い合い、カメラは店の看板にズームインしながらフェードアウト。）

END